

文教大学における心理学古典的実験機器について

増田 知尋*

Historical instruments of experimental psychology
in the Faculty of Human Sciences, Bunkyo University

Tomohiro MASUDA

The purpose of this paper was to describe the current state of historical instruments for experimental psychology stored at Bunkyo University. Study of these psychological instruments is part of related research since 2007 to salvage and preserve apparatus to be discarded. First, this paper describes the events leading to the preservation and display of these actual historical instruments at Bunkyo University and the results of digital archival of these instruments that was done as part of the activities of the Japanese Psychological Association. Then, this paper describes the use of these instruments to teach experimental psychology and their effectiveness. Last, this paper discusses the present state of the experimental instruments and a working exhibit of those instruments as a future possibility.

Keywords : psychological instrument, historical instruments, Japanese history of experimental psychology
心理学実験機器、古典的実験機器、日本実験心理学史

はじめに

心理学が科学として歩み出して100年余りが経過し、隣接する自然科学及び実験に関連する種々の技術の発展と共に心理学も研究を進展させてきた（国内における実験心理学の導入に関しては、苧阪（1998）等）。科学の進展を支えてきた古典的な実験機器は、世界各国では科学への貢献を知る上での資料として丁重に扱われている。例えば、ボストンにあるサイエンスミュージアムでは、化学や宇宙工学の歴史を気づいた装置の展示の一部に、心理学の実験と関連したブースも設置されている。研究が常に新しい知見を求める行為であることは疑いのない事実であるが、学問の歴史を学び、当時の実験機器を通じて心理学が扱ってきた現象を経験することにより、その学問に関するパースペクティブを得ることができる。しか

しながら、心理学の歴史を支えてきたそれらの実験機器及び関連史料に関して、国内では海外に比べると重要視されていない。これらの古典的な機器¹や史料は、骨董品的な価値を有するものではなく、人間そのものの特性を科学的に検証しようとしてきた心理学が展開する過程で、研究者がどのような事実を発見しようとし実験を実施してきたのか、心理学が展開する過程における先人達の探求の実像を示す証拠となっており、自然科学としての心理学の学問体系を学ぶ上で重要な教材となり得る。教育研究機関においては、海外ではアクロン大学における活動をはじめ、いくつかの研究機関が心理学史のアーカイブズに史資料を保存しているが、国内において独自の収集整理機能を持ったアーカイブズは、オンラインを除いては存在していない²（サトウ, 2007）。

* ますだ ともひろ 文教大学人間科学部心理学科

日本における心理学の歴史的史料に関する調査研究は、これまでにいくつかの研究プロジェクトが立ち上げられている。例えば、西川泰夫上智大学名誉教授による「日本の心理学史に関わる海外資料収集調査研究（2003-2005）：文部科学省科学研究費補助金（基盤研究（B）：課題番号15402045）」では、日本の心理学史と関連する史料について、旧帝国大学のひとつであった台湾国立台湾大学（旧 台北帝国大学）における心理学関連の史料の収集・分析を行っており、同大学心理系に保存されている心理学の実験機器に関してとも言及されている。加えて、辻敬一郎名古屋大学名誉教授による「本邦心理学における実験機器利用の史的展開（2000-2001）：文部科学省科学研究費補助金（基盤研究（B）：課題番号12410026）」の国内心理学実験機器の調査研究をはじめ、長田佳久立教大学名誉教授を研究代表者とした「実験心理学における古典的実験機器のアーカイブ化とその活用（2007～2008）：文部科学省科学研究費補助金（基盤研究（B）：課題番号19330162）」「心理学の古典的実験機器に関するデータベース作成とその活用（2010～2012）：文部科学省科学研究費補助金（基盤研究（B）：課題番号22330203）」では、古典的実験機器や関連史料の保存に留まらず、それらを心理学教育に活用する試みについての提案がなされている。また、菅阪直行京都大学名誉教授による「実験心理学の誕生と展開」では、我が国に輸入され、帝国大学心理学研究室で使われた歴史的実験機器の豊富な写真と解説、機器を使った実験の様子など優れた研究資料として纏められている（菅阪、2000）。

心理学における古典的実験機器の現状と保管の重要性

心理学における実験機器は、1980年代からコンピュータの入手や利用が身近になり、多くの実験

がコンピュータを用いることで容易かつ精確に実施が可能となったことに加え、特有の実験に特化した機器の多くは利用していた研究者の退職、研究施設の移転や改築に伴って廃棄され、現物はその多くが失われている。加えて、心理学実験に用いられてきた独自の機器の多くは、個々の研究者の問題意識に即して特化し開発・改作されたが故に、保存・継承されることは少なく、当該研究が終了すると廃棄され、保存・継承はなされてこなかった（辻、2009）こともその一因であると考えられる。2009年に行われた調査では、心理学に関する古典的な実験及びその資料を保有しているとの回答があった教育・研究機関はわずか13機関で、その多くは国立大学であった（増田・草野、2009）。昨今の教育・研究機関を取り巻く状況を鑑みると、このような現物の保管に関する活動をそれぞれの機関で行い、拡張していくことは容易ではないと考えられるが、実験機器や関連史料に関する情報は、日本心理学会の機関誌の1つである、心理学ワールド等でも継続的に取り上げられ、学術的な面白さと重要性が示されている。

その役目を終えて実験に使用されなくなり、時を経て用途が不明となった実験機器であっても、機器の現物や関連史料の調査から、その当時の研究機関における実験心理学の特徴や、実験研究の発展について知ることも可能である（例えば、大山・佐藤、1999）。加えて、他の研究機関のアーカイブとの比較を行うことで、新たな発見があることもある。例えば、東北大学で保管されていた古典的実験機器は、京都大学で保管されている古典的実験機器と比較することで不明であった機器の使用用途や名称が明らかとなった（日高・行場、2009）。加えて、再調査を行う際の高効率化へとつながり、新たな発見へとつながることもある（例えば、吉村、2016）。また、実験や機器と関連する資料を同時に保管することで、実験機器の使い

¹ 広義には、1980年代にコンピュータが心理学実験に用いられるようになった以前の機器を心理学における“古典的”な実験機器と見なすこともできる（吉村、2016）が、本稿では特に年代による区別はせず、現在の実験で用いられることの少なくなった機器全般を示している。

² オンラインでは、日本心理学会が公開している心理学ミュージアム内の歴史館（https://psychmuseum.jp/device_top/）や、京都大学文学部 心理学古典機器博物館（<https://www.bun.kyoto-u.ac.jp/psy/museum/Contents.html>）等での閲覧が可能である。

方だけではなく、当時の実験・研究に関する思想をもうかがい知ることが可能となる。

文教大学における古典的実験機器の保管・展示の経緯

京都大学や東北大学等に代表される様に、現存している古典的実験機器の多くはそれぞれの機関で用いられてきたものが現在まで保管され、大学の心理学研究の変遷を語る貴重な資料の一部となっている。しかしながら、文教大学において展示されている機器はそれらとは少し異なった経緯で保管と展示が行われている。

文教大学における古典的な実験機器に関する諸活動は、椎名健文教大学教授（当時）が、2010年に当時立教大学で展示していた機器の数点を貸与され、心理学に関連する体験装置と共に展示したことがその始まりである。その後、2014年には鎌田晶子文教大学教授と田積徹同教授のご尽力により、文教大学越谷キャンパス12号館2階のショールームにて期間限定の古典的実験機器の展示が行われた。立教大学が当時保管していた実験機器は、立教大学で使用していた機器のみならず、前述の日本学術振興会科学研究費補助金のプロジェクトにより収集していた国内のさまざまな大学で廃棄される予定であった機器が多く含まれており、立教大学に保管されていたこれらの機器の大部分は、2015年に日高聡太立教大学教授のご尽力により文教大学に貸与された後に、2018年に譲渡され現在の状態となった。その後も同様に廃棄される予定だった実験機器の中で特に心理学実験の教育において重要な機器を中心に収集し、最終的に7研究機関から移設された100点近くの古典的実験機器や関連資料が文教大学越谷キャンパス内に展示・保管されることとなった。後述する心理学ミュージアムのデジタルデータの件数を鑑みても、実験機器の現物の保管・展示の件数に関して、文教大学の規模は比較的大きいといえる。

実験機器のデータベース作成とデジタルアーカイブ化

実験機器の現物の保管が重要であることは既に示したが、その為のスペース及び管理の問題もあ

ることから、デジタルアーカイブ化も有用な手段の一つである。心理学における古典的実験機器のデジタルアーカイブ化に関しては、2007年より始まった長田佳久立教大学名誉教のプロジェクトの活動の一部を受け継ぐ形で吉村浩一法政大学教授（当時）を中心とし活動が行われた。その成果として、2015年に「実験心理学ミュージアム」(<http://mep.i.hosei.ac.jp/>) が開設され、その後日本心理学会が運営するサイトへと引き継がれることとなる（詳細は吉村 2015, 2020）。関連して、2012年に心理学関係資料の保存を目的として、日本心理学会教育研究委員会内に「資料保存小委員会」(委員長：佐藤達哉立命館大学教授) が設置され、著者も2015年より委員に加わったこともあり、小委員会の協力の下、文教大学が保管している機器の調査及び撮影が行われることとなった。

撮影及び調査は、学術資料のデータベース作りを専門とする合同会社AMANEに、機器の写真撮影と資料の下整理に関する依頼を行った。まずは管理の為に、他大学と同様に、文教大学に保管されている機器・資料に関してデータベース化の為の通し番号をつける作業から行った。日本心理学会の管理する心理学ミュージアム「歴史館」内の古典的機器 (https://psychmuseum.jp/device_top/) と同様のフォーマットで、文教大学の機器であることを示す「BK」(BunKyo) の後に5桁の通し番号を続けることでデータベースの登録番号として用いた。例えば、1番に登録された機器は「若狭式マクベス照度計」は、「BK00001」となる。

2018年3月19日に行った下調査では、これまでの他大学から譲渡された際の複数の機器のリストを基にし、実際の展示・保管場所を確認し、現物にタグを付けてリスト化を行った。それぞれの機器に関して、それまで判明していた付加情報を合同会社AMANEに依頼し、デジタル化のための写真撮影に備えた。また、文教大学に保管されている実験機器は前述した経緯で収集されてきたために、使用研究機関や旧蔵者に関しても付加情報としてリストに加えた。

2018年8月22日から24日まで3日間に分けて撮影を行った。本調査では、タグ付けされた番号順

に実験機器及び関連史料の写真撮影を行った。それぞれの機器別に、機器の形状に合わせて正面、側面、背面等の撮影を行い、必要に応じて底面など別の角度からの撮影を行った。また、機器の製造会社のプレートや、登録時の備品番号等の文字情報がある機器については、それらに関する撮影を行った(図1)。加えて、吉村浩一法政大学教授(当時)、増田直衛慶應義塾大学名誉教授も同席し、撮影と平行して、実験機器の状態や当時の使用方法に関するインタビューを併せて行った。

撮影までの機関に機器に関する調査・整理を行う中で、他の機器の一部であることが判明した機器があったことなどから、欠番となるIDも発生したが、IDでBK00110まで、合計102個の機器・資料の撮影を行った。また、撮影時に作成されたリストにより機器の写真と名称をはじめとする各種情報の紐付けがなされ、それらの情報に関する追加調査は当時契約職員として文教大学に在職していた草野勉氏により行われた。

この追加調査により、BK00002のアノマロス



図1 デジタル化の例
(BK00100 カイモグラフ
Zimmermann 社製)

- a) 実験機器の正面写真
- b) 実験機器の背面写真
- c) d) 実験機器の側面の写真
- e) 製造会社 (Zimmermann) の刻印



図2 日置式アノマロスコープ（旧名称：アノマロスコープ試作機）（BK00002）

コープ試作機（図2）は、大山正氏から試作型の実験機器である旨を伝達され譲渡されたものであったが、日置式アノマロスコープとして、半田屋商品カタログ（太田、1997）にも類似した機器が記されていたことが明らかとなった。また、「Trent Wells Inc.」の刻印があり撮影時には名称が不明であったBK00063は、同様の機器の写真が掲載されている文献（Michael, 2004）から、脳定位固定装置（stereotaxic）である可能性が示唆された。同様に名称が不明であったBK00085は、Zimmermann社のカタログ（Zimmermann, 1937）より、デュ・ボア＝レーモンの誘導コイル（感応コイル）あるいは「最小可聴音検査器」と呼ばれる機器の一部であることが判明した。これらを含む11点の古典的実験機器の追記・修正が行われた。修正された機器リストを表1に示した。

教育への活用の試み

これらの実験機器の活用の一環として、2018年度には「心理学実験法」の講義において、文教大学学内に展示されている機器の中からカイモグラ

フ（BK00100：図1）とBergströmの振子型測時計（BK00066：図3）の写真を事前に配布し、装置の見学を行った。その後、それらを含む実験機器の用途に関する推測すること、展示されているその他の機器の中で用途を知っている機器やその内容、説明を受けて興味を持った機器について記すことをレポートとして課した。カイモグラフについては、パプロフの犬の実験の説明が展示機器に添えられていたものの、「自動給餌器である」等、円等部分に貼り付けた記録紙に生態指標の時間的な変化を記録するという本来の用途とは異なる回答が見受けられた。さらに、振子型測時計については、振り子の重量を調整することで精密な時間測定・制御を行うことができる時間制御系の機器であるが、そのことと関連した回答は見受けられなかった。その他、写真を配布しなかった機器にもさまざまな回答があり、例えばゾートロープ（BK00067：図4）については、スリットの間から円筒内の複数の静止画を観察することで、静止画が動いて見えるという、アニメーションの原理を体験できる装置であるが、画像の一部しか見

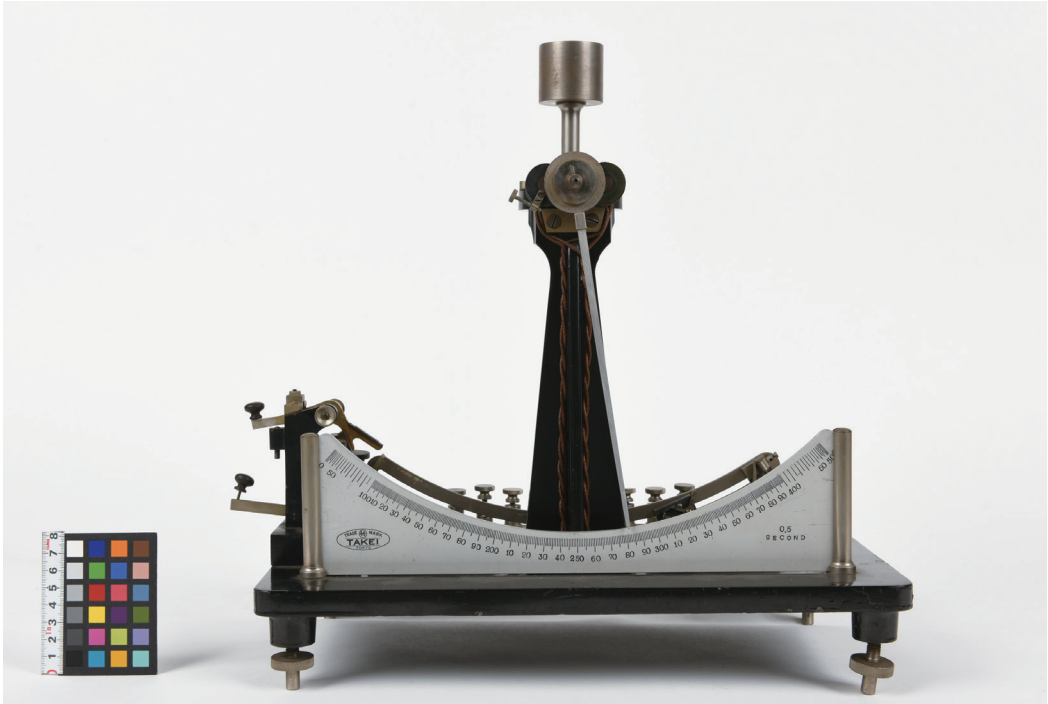


図3 Bergströmの振り型測時計 (BK00066)

えていなくても全体像が把握できるというスリット視の装置との関連を推測するなど、古典的実験機器と心理学実験とのつながりについてさまざまな考えを巡らせる機会を提供することができた。一方で、本来の使用用途とは異なる回答があった点に関しては、機器の詳細情報が不足していたことに加え、それぞれの機器の動作状態を実際に見ることができなかったことが一因であると考えられる。

その後、講義中で機器の用途についての説明を行ったところ、講義後の感想として、現在のコンピュータを用いた装置を中心とした実験だけでは想像が難しい「実験において記録や制御の方法がいかに重要視され、これまでさまざまな工夫がなされてきたか」に関心を持ったことを伺わせる内容が見られたことに加え、ゾートロープと心理学とのつながりに関する受講者からの質問が、 β 運動（仮現運動）に代表される知覚心理学研究の萌芽について解説する契機になったことなど、古典的実験機器の活用が、座学に終始しがちな心理学の研究法や心理学史の講義にインタラクティブな



図4 ゾートロープ (BK00067)

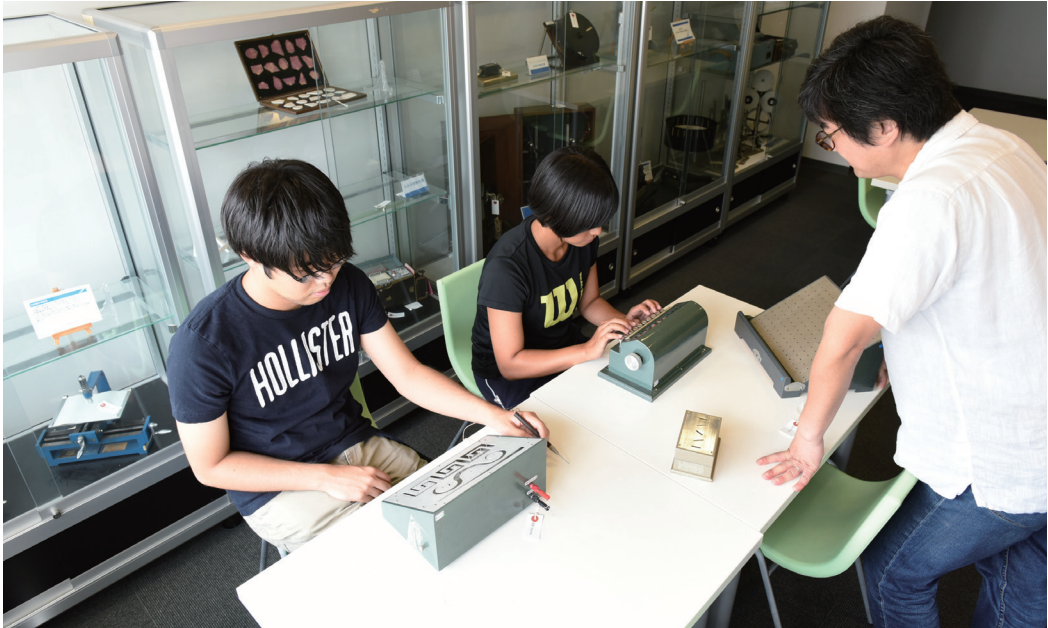


図5 学生による機器使用体験

学びの側面を持たせる一助になることが示唆された。加えて、機器の展示をしていることは知っていたものの、説明を受けてはじめてこれらの機器に関しての詳細が分かり面白かった等の感想もあった。当該講義をきっかけに実験機器への興味が生じたことは喜ばしいことであるが、反面、当該講義がなければ興味の対象にならなかったことを意味しており、展示の方法や記すべき情報について改善の余地があることを示している。また、機器の動いているところを見たいとのコメントもあったことから、このようなリクエストにも応え、教育的な観点から実験機器をより有効利用できる展示へとさらに発展させ、若い世代が心理学に興味を持つためのきっかけの一つとなることを目指す必要がある。

その他にも、文教大学内に展示されている実験機器の中には知覚心理学で使われていた機器も多数存在するため、知覚心理学を専門とする著者のゼミに所属する学生の中で興味を持った学生には実際の機器に触れ、測定の体験等を行う機会を継続的に設けている（図5）。

実験機器の動態展示の試み

前述した機器の動作閲覧の希望に関する講義内コメントを受けて、2020年までの間に、機器の仕組みを通じて心理学実験に関する学びを促進することを目的として、動態展示への試みと展示内容の更新を行った。動態展示に関しては、現物そのものの修復ではなく、機器の仕組みを理解し、何を測定しようとした機器なのかを理解することを目的とした装置を草野勉氏が作成し、展示を行った。現時点では、日置式アノマロスコープ（BK00002）及びゾートロープ（BK00067）の2点に関して動態展示を行っている。どちらも、ペダルスイッチや距離センサを用いることで、機器そのものに触れることなく、機器の動作を観察することができる。併せて、これらの機器の操作説明を掲示した。ゾートロープは、フットペダル式のスイッチを踏むことでゾートロープの円筒部分が開展し、スリット越しに円筒内を観察することで、円筒内の絵が動いていることを体験できるようにした。

日置式アノマロスコープに関しては、機器の使用用途と測定原理の説明（図6）をした上で、実機と同様の仕組みで混色を行う課題ができる装置

を併設し、その操作方法を掲示した(図7)。また、直接機器に触れなくても課題の実施ができるよう、距離センサを用いて操作ができるようにした(図8)。

このような装置の動態展示とそれによる操作体験に関して、現状では講義内での紹介は行っており、今後、これらの体験による心理学の教育効果に関しても検討していくことが望まれる。

アノマロスコープ

用途

先天性色覚異常の検査器

使用方法

のぞき穴から筒をのぞくと、上下に二分された円が見えます。上半分は赤と緑の色光が混ざった光、下半分は黄の色光で構成されています。

被検査者は、ノブを操作して、上半分の赤と緑の色光の割合、および下半分の黄の色光の強さを変化させて、下半分の黄の色光と同じ明るさの黄色に見えるように調整します(等色)。

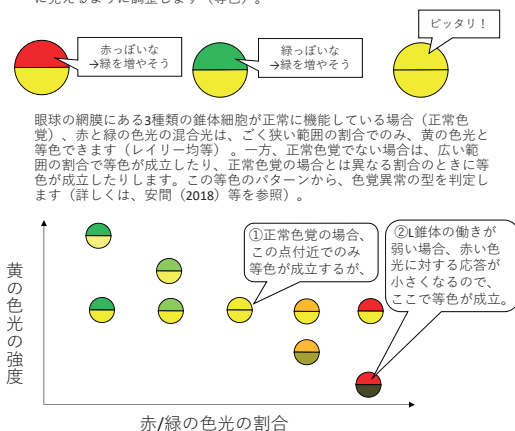
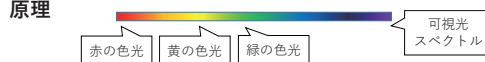
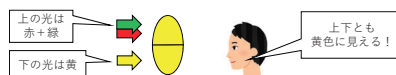


図6 アノマロスコープの使用用途と原理の説明

原理



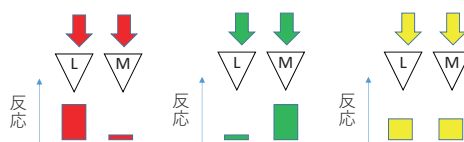
この装置では、上に示す可視光スペクトルのうち、円の上半分には赤・緑、下半分には黄の色光を使用しています。



大多数のヒトの網膜の視細胞には、L, M, S錐体とよばれる3種類の錐体細胞があります。

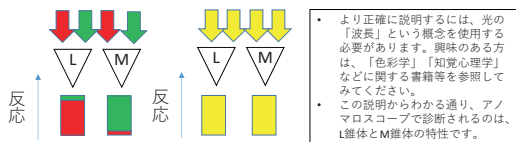
L錐体は、赤に近い色光により強く、M錐体は緑に近い色光により強く応答します。L錐体もM錐体も、黄の色光には同程度の応答を示します。

(ここでの「反応」は厳密には、各錐体の最大応答に対する比を表しています。)



赤と緑の色光を混合した光を提示すると、L錐体は赤の色光に強く応答し、M錐体は緑の色光に強く応答するため、全体的な応答は下の図のようになります。これは、黄の色光に対する応答の割合と同じになるので、ヒトの眼には、同じ「黄色」に知覚されます。

正常色覚以外の場合では、各錐体の応答がこの図の通りとならず、広い範囲で等色が成立したり、正常色覚の場合とは異なる割合で等色が成立したりします。

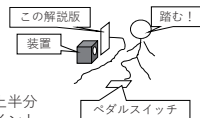


- より正確に説明するには、光の「波長」という概念を使用する必要があります。興味のある方は、「色彩学」「知覚心理学」などに関する書籍等を参照してみてください。
- この説明からわかる通り、アノマロスコープで診断されるのは、L錐体とM錐体の特性です。

混色を体験！ アノマロスコープの動作原理

・体験の方法

- 足元のペダルを踏んでスイッチON！



- 右の距離センサーに手をかざして、円の上半分
の光が、下半分と同じ色（黄）になるポイント
を探そう！

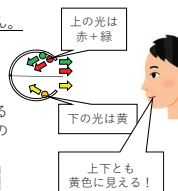


- 上半分の光は、赤と緑の発光ダイオード
（LED）の光で構成されています。手を近づけ
ると赤色LEDがより強く発光し、手を遠ざけ
ると緑色LEDがより強く発光します。赤と緑の
LEDだけで、黄色LEDの光は含まれていません。

- 下半分の光は、黄の単色LEDのものです。

- なぜ、赤と緑のLEDだけで、黄色の光が見える
のでしょうか？詳しく知りたい方は、こちらの
WEBサイトの解説へ！

- インターネット接続が必要です。



※この装置はあくまで混色の原理を体験するためのものであり、検査のために設計されたものではありません。たとえば、使用しているLEDの波長はアノマロスコープのものとは異なる（広帯域で中心波長もずれている）ため、この装置で上下の黄色が同じに見える点が見つからないからといって、色覚異常があるとはいえないことに注意してください。

図7 アノマロスコープ体験機器の操作説明

図8 混色体験装置

画像内、左下側の黒いボックス内にLED光源が設置されており、上部分にある2色の光源の輝度比が距離センサーとの距離によって変化する



終わりに

本講では、文教大学における古典的実験機器に関する展示の経緯と、教育利用へ向けた現状について述べた。文教大学では、機器のみならず関連する操作マニュアルや当時の心理学実験に関連する授業で用いられてきた手順書やノートも同時に保管されているため（詳細は草野・増田, 2019）、機器の適切な使用方法や、当時どのように研究教育活動で用いられてきたのかについても明確に知ることができる。他にも、実験機器が使用されていた時期とはほぼ同時期の心理学関連の講義ノート等も保管しており、当時の心理学の研究・教育思想とのつながりを知ることも可能である（講義ノートの重要性については、高島, 2013等）。このような機器・資料の保存調査の成果が、日本の心理学研究の軌跡を知るための一助となり、心理学教育への更なる利用がなされることが期待される。

謝辞

本研究活動を遂行するにあたり、文教大学平成28年度学長調整金による教育改善・研究成果の発表支援「実験心理学における古典的実験機器・資料を用いた心理学教育」及び文教大学人間科学部共同研究の助成を受けました。また、本研究活動全般に関して岡村達也氏に、機器の利用方法に関して増田直衛氏と藤健一氏に、アーカイブ活動全般に関して吉村浩一氏と合同会社AMANEに、教育利用と展示に関して草野勉氏に、多大なるご尽力をいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

引用文献

日高聡太・行場次朗（2009）．東北大学心理学研究室における古典的心理学実験機器の歴史と特色ー京都大学との比較からー 心理学史・心理学論, 10/11, 49-55.
草野勉・増田知尋（2019）．心理学ミュージアム 心理学ワールド, 87, 2-3.
増田知尋・草野勉（2009）．心理学実験機器の保有状況に関するアンケート調査と結果 2007年度文部科学省科学研究費補助金（基盤研究B：課題番号19330162）「実験心理学における古典的実験機器のアーカイブ化とその活用」成果報告書, 35-40.
増田知尋・長田佳久（2011）．心理学ミュージアム

心理学ワールド, 53, 2-3.

Michael M. Patterson（2004）．In Memoriam J. David Kopf KOPF Carrier #60, 1-8.
太田安雄（1997）．色覚検査器 日本眼科学会百周年記念誌編集委員会（編）日本眼科学会百周年記念誌第6巻 日本眼科の史料, pp.40-49, 日本眼科学会
大山正・佐藤達哉（1999）．東京大学における心理学古典的実験機器について 心理学評論, 42（3）, 289-312.
長田佳久・増田知尋（2007）．見てみて実感 心理学史 心理学ワールド, 38, 33.
苅阪良二（1998）．明治から昭和初期にいたる実験心理学の形成過程——元良勇次郎と松本亦太郎を中心として—— 心理学評論, 41, 333-358.
苅阪直行（2000）．実験心理学の誕生と展開：実験機器と史料からたどる日本心理学史 京都大学学術出版会.
サトウタツヤ（2007）．みてみて実感！心理学史アーカイブズとは何か？心理学ワールド, 39, 33.
高島翠（2013）．講義資料から知る教育者としての盛永四郎. 心理学史・心理学論, 14/15, 46-57.
辻敬一郎（2009）．心理学実験機器アーカイブの必要性と意義 2007年度文部科学省科学研究費補助金（基盤研究B：課題番号19330162）「実験心理学における古典的実験機器のアーカイブ化とその活用」成果報告書, 115-116.
吉村浩一（2012）．1970～80年代のわが国の心理学研究における実験機器利用—竹井機器工業製造品データベース構築の意義—, 法政大学文学部紀要, 65, 97-116.
吉村浩一（2015）．「実験心理学ミュージアム」から「心理学ミュージアム」へのお引越 心理学ワールド, 68, 2-3.
吉村浩一（2016）．東北大学に残る心理学古典的実験機器の再検討2015年の現地調査により得られた新しい知見 法政大学文学部紀要, 72, 147-160.
吉村浩一（2020）．日本に現存する心理学古典的実験機器を扱った論文の展望 心理学史・心理学論, 20/21, 1-11.
Zimmermann, E. (1937) . Wissenschaftliche Apparate, Liste 200, p.35. Leipzig-Berlin (Collection Jiri Hoskovec)

表1 歴史館古典機器メタデータ

大学別 番号	機器名称1 (一般名称)	機器名称2 (カタログ名称)	機器名称3 (登録機関での 名称/別名)	製作者	領域	用途	ラベル情報等	製造開始 年(西暦)	使用開始 年(西暦)	使用終了 年(西暦)
BK00001	マクベス照度 計	マクベス照度 計	若集式マクベ ス照度計	若狭光学研 究所	視覚	物理測定(時間・ 重量・長さ・照度 等)	(本体)「[]」・「[]」・(木箱)「昭和32年 現品対 照票 第号 文学部」	1935	1957	1957
BK00002	偏光アノマロ スコープ	日置式アノマロ スコープII型	アノロマスコ ープ試作機	半田屋	視覚	心理検査	(本体)「電圧 100V c/s 50HZ (商標) 竹井機器工業 株式会社」	1982		
BK00003	メモリーテーブ ル	メモリーテーブ ル	メモリーテーブ ル	竹井機器工業 株式会社	学習記憶実験	刺激提示	(本体)「手指屈伸運動訓練器」・「品名 T.K.K 自記式 エルゴグラフ 担当印(印文)「田澤」検査印(印文)「鈴 木」(商標) 竹井機器工業株式会社」	1975		
BK00004	自記式エルゴ グラフ	自記式エルゴ グラフ T.K.K.1242	自記式エルゴ グラフ	竹井機器工業 株式会社ノード	保健体育	身体測定(含トレ ナー)	(本体)「用品 NO. 8820726 立教大学 1988」・(タイ マー)「鏡映描写1」	1969		
BK00005	鏡映描写器	電動式鏡映描 写器 T.K.K.141	鏡映描写器	竹井機器工業 株式会社	学習記憶実 験運動協応	刺激提示反応測 定・記録教材(デ モ・教育)	(本体)「岡山大学物品番号票 部局名 キョウイクガク 品目 [] タイザー 分類目録コード [] 15-021 記号 Q-021 物品番号0007-規格 [] KK315」	1988	1988	
BK00007	デジタルタイ マー	デジタルタイ マー T.K.K.315	DIGI TIMER	竹井機器工業 株式会社	多領域	反応測定・記録・ 物理測定(時間・ 重量・長さ・照度 等)		1991		
BK00009	電磁シャッター		電磁シャッター (手作り)	COPAL JAPAN	視覚	刺激提示	(附属品)「PLACE IN CANERA THIS SIDE OUT AND THIS END TOWARD LENS SUPER-X FAST. FINE GRAIN PANCHROMATIC SAFETY FILM MADE IN U. S. A. BY EASTMAN KODAK COMPANY PATENTS U. S. A.・CANADA 1933- 1936 2.036.378 2.059.834 2.105.254 2.124.883」・(附 属品ケース)「DO NOT ACCEPT FILM IF THIS SEAL IS [] BROKER」			
BK00010	16mmフィルム カメラ	Magazine Ciné-Kodak	16mmカメラ	EASTMAN KODAK COMPANY	多領域	反応測定・記録・ 行動記録(アナラ イザー)		1936		
BK00011	接写装置	ライカ接写装 置	エヒト・ライカ 用接写装置	ECHT WORKS	その他	その他				
BK00012	プランニメーター	planimeter	プランニメーター	A. OTT	その他	その他	(ケース)「昭和32年 現品対照票 第340号 文学部」		1957	1957
BK00015	追従動作検査 器		バーシユート ローター	竹井機器工業 株式会社	学習記憶実 験運動協応・ 職業・疲労・適 性・運動	刺激提示反応測 定・記録・心理検 査	「東大文学部 昭和33年度 記号 い35 番号 第2号」		1958	1958
BK00017	眼球運動計測 器	眼球運動モニ ター T.K.K.928	眼球運動モニ ター, EYE MOVEMENT MONITOR	竹井機器工業 株式会社	視覚生理	反応測定・記録	(本体)「東大文学部 平成4年度 記号L79 番号1」	1992		

BK00018	タイマー	プリセットタイマー T.K.K412	デジタルブリ セツタイマー	竹井機器工業 株式会社	多領域	制御（時間設定 等）	(本体)「AB-75」・「東大文学部 昭和57年度 記号 35 番号 第10号」・「L-106-3」・「AB-75」・「東大文学部 昭和57年度 記号 35 番号 第11号」・「L-106-4」・「L- 106-1」・「東大文学部 昭和56年度 記号 L44 番号 第2 号」・「東大文学部 昭和56年度 記号 L44 番号 第3号」・ 「東大文学部 昭和56年度 記号 L44 番号 第4号」・「東 大文学部 昭和56年度 記号 L44 番号 第5号」・「東大 文学部 昭和56年度 記号 L44 番号 第6号」・「20\250 CO・O []」・「54文」・(附属品1)「東大文学部 昭 和51年度 記号 L41 番号 第2号」・「54文」			
BK00019			発達検査 (輸入品)	(木箱) PAUL HW HARTMANN HAMDEN、(ク レヨン) EBERHARD FABER			(木箱)「心理学 P」			
BK00020	マルチユニット	マルチユニット システム 製 品番号320	デジタルブリ セツタイマー ユニット、瞬間 視	竹井機器工業 株式会社	多領域	制御（時間設定 等）・反応測定 ・記録・物理測定 （時間・重量・長さ・ 照度等）・コンピュータ・マルチ ユニット	(本体1)「用品 NO. 9320594 立教大学 1993 心理」、 (本体2)「用品 NO. 9320591 立教大学 1993 心理」、 (本体3)「用品 NO. 9320591 立教大学 1993 心理」、 「用品 NO. 9320592 立教大学 1993 心理」、(本体2) 「瞬間視2」・「瞬間視II」・「[] OUT」・「瞬IN- []」、 (本体3)「瞬間視3」・「瞬間視III」	1993	1993	
BK00021	振子型測時計		振子型測時計 器		多領域	制御（時間設定 等）・反応測定 ・記録・物理測定 （時間・重量・長さ・ 照度等）	「0709」・「赤ローソク 差し込み端子」			
BK00022	カイモグラフ		カイモグラフ	National	多領域	反応測定・記録、 行動記録（アナライ ザー）	「4 ①」			
BK00023	抵抗箱		抵抗箱	株式会社横河 電機製作所	その他	物理測定（時間・ 重量・長さ・照度 等）	「No.74」・「RK 31」	1943		
BK00024	視覚刺激提示 装置	三島式点形態 図形発生	三島式	竹井機器工業 株式会社	視覚	刺激提示	「立教大学心理学研究室」・「RK 17」・「209」・「[]」	1970		
BK00025	臨界融合周波 数測定器		デジタルフリッ カー	竹井機器工業 株式会社 KYOTO KYOEI ELECTRICAL Co.,	視覚・職業・疲 勞・適性・運転	制御（時間設定 等）・刺激提示・反 応測定・記録				
BK00026	マクベス照度 計		若狭式マクベ ス照光度計	若狭光学研究 所	視覚	物理測定（時間・ 重量・長さ・照度 等）	(木箱)「慶應義塾大学 日吉心理学研究室」・「1090」	1950		

BK00027	大小分類検査器	大小分類検査器 T.K.K.117	大小分類検査機 (適性検査器械)	竹井機器工業株式会社	職業・疲労・適性・運転	刺激提示反応測定・記録心理検査	「630-L-W-00009-001 日付 46.12.31 個数 1 ダイシヨウブ ンリケンサキ 松山東雲学園 (6102)」・「 []」・「10- AC-60-1」	1968	1971	1971
BK00028	複式ブラニメーター		複式ブラニメーター (面積計出器)	株式会社鳥津製作所	その他	その他	(ケース1)「複式ブラニメーター (面積計出器)」			
BK00029	音叉		音叉 (125Hz)	ソニー株式会社	聴覚音楽	刺激提示物理測定 (時間・重量・長さ・照度等)	(木箱)「125 ~ 音叉」・シールあり	1962	1963	1963
BK00030	選択反応時間検査器		選択反応時間検査装置 (制御部分)・REACTION TIME TESTING APPARATUS	竹井機器工業株式会社	視覚・職業・疲労・適性・運転	刺激提示反応測定・記録心理検査	ラベル:「OK4」・「岡山教育学部 S 126 1」	1965		
BK00031	電鍵		電鍵	安藤研究所	多領域	アタッチメント・ス イッチ類	「No 15-4」			
BK00032	重量弁別器		重量弁別器	安藤研究所	温度・圧・痛覚・重量感覚	刺激提示, 教材 (デモ・教育)	(木箱)「174」・「立教大学心理学研究室」・「RK54」			
BK00033	身体測定器		マルチン身体測定器	株式会社山越製作所	保健体育	身体測定 (含トレーナー)	(ケース)「RK55」・「 []」・シールあり			
BK00034	積算時間計		電気時間計	株式会社山越製作所	多領域	反応測定・記録・物理測定 (時間・重量・長さ・照度等)	「RK42」			
BK00035	積算時間計		電気時間計	株式会社山越製作所	多領域	反応測定・記録・物理測定 (時間・重量・長さ・照度等)	「No 59-1」・「RK43」			
BK00036	視覚刺激発生装置	Innisfree Picasso CRT Image Synthesizer	Innisfree Picasso		視覚	制御 (時間設定等) 刺激提示	(本体)「慶應義塾 経理区分 201 分類 大 1 中 13 小 12 固有番号16年度 60」・「慶應義塾大学 日吉心理学研究室」・(モニター)「慶應義塾大学 日吉心理学研究室」・「CAUTION (以下略)」	1985	1985	1985
BK00037	眼球運動計測器		眼球運動測定装置新生児用ゴニアル		視覚生理	反応測定・記録				
BK00038	回転混色器		マルベ式混色器	CORONA MOTORS CO. LTD. TOKYO JAPAN, 株式会社山越製作所	視覚	制御 (時間設定等) 刺激提示, 反応測定・記録	(本体)「No.3.3」, (木箱)「458」・「1 ①カ」	1968		
BK00039			深視覚測定器	株式会社山越製作所						

BK00040	ベグボードテスト		棒さし検査セット二号、智能検査具 棒さしセット二号	株式会社山越製作所	運動協応性・格・知能職業・疲労・適性・運転	刺激提示・反応測定・記録・心理検査	「209」・「心理」・「No.36-4」	1955		
BK00041	職業適性検査器（第一）	労働省福祉（第一）T.K.K.1302	職業適性検査器（第一）	竹井機器工業株式会社	運動協応性・格・知能職業・疲労・適性・運転	刺激提示・反応測定・記録・心理検査	（箱1）「466」、（本体1）「立教大学68」、（本体2）「43」・「備品 NO. 17446 立教大学 68.」			
BK00042	レベルレコーダー	High speed level recorder RS-87	小型ペン書きレコーダー・高速度レベル記録器	株式会社ノーエフ・NIHON ELECTRONICS INDUSTRIAL CO., LTD.	聴覚音楽多領域	物理測定（時間・重量・長さ・照度等）	「高速度レベル記録器 RS-87」・シールあり	1970		
BK00043	混色器		混色器（3連式）	株式会社山越製作所	視覚	制御（時間設定等）・刺激提示・反応測定・記録	（スタンド）「OK 3」・「部局名 整理 No.8753 教育学部」、スタンドにシールあり			
BK00044	混色器		マルベの混色器	竹井機器工業株式会社・MATSUBISHI ELECTRIC INDUSTRIAL CO., LTD.	視覚	制御（時間設定等）・刺激提示・反応測定・記録	（本体）「暗→明」、（スタンド）「立教大学心理学研究室」・「RK60」	1981		
BK00045	臨界融合周波数測定器		ポータブルフリッカー	株式会社山越製作所・TOKYO SEIKO DENKEI SHA JAPAN	視覚・職業・疲労・適性・運転	制御（時間設定等）・刺激提示・反応測定・記録	「ソウコ」・「No.51-3」・「465」・「ポータブルフリッカー 13606」・「247」・「[]」・「備品 NO. 13606 立教大学 65」			
BK00046	電圧計		volt meter	株式会社島津製作所	その他	物理測定（時間・重量・長さ・照度等）	シールあり			
BK00047	錯視図		ミューラーリヤ錯視装置	竹井機器工業株式会社	視覚	刺激提示・反応測定・記録・教材（デモ・教育）	（木箱）「469」・「[]」			
BK00048	石原式視野検査用指標		視野検査用指標、石原式視野検査用指標	（本体）半田屋（木箱）株式会社山越製作所	視覚・職業・疲労・適性・運転・医療	刺激提示・心理検査・その他	（木箱）「464」・「228-1」			
BK00049	メモリーテープ用テースタンド		メモリーテープ用テースタンド	竹井機器工業株式会社	学習記憶実験	制御（時間設定等）・刺激提示	ラベル：（スタンド）「453」・「備品 NO. 23410 立教大学 77.」			
BK00050	交流電流計		AC AMMETER	株式会社島津製作所	その他	物理測定（時間・重量・長さ・照度等）		1964		

BK00051	抵抗計		OHM-METER	株式会社 津製作所	島	その他	物理測定 (時間・ 重量・長さ・照度 等)	1964		
BK00052	単相電力計		単相指示電力 計	株式会社 津製作所	島	その他	物理測定 (時間・ 重量・長さ・照度 等)	1964		
BK00053	ベッボード		棒挿盤 マッチ ボード	竹井機器工業 株式会社	運動協応性 格・知能職業 ・疲労・適性・ 運転	刺激提示反応測 定・記録・心理検 査	「品名 マッチボード 担当印 (印文)「米田」検査印 (印 文)「中山」(商標) 竹井機器工業株式会社」・シールあ り	1972		
BK00054	粗準検査器		粗準検査器	竹井機器工業 株式会社	運動協応性 格・知能職業 ・疲労・適性・ 運転	刺激提示反応測 定・記録・心理検 査	「RK57」・シールあり			
BK00055	モノコード		モノコードC形	株式会社 津製作所	聴覚音楽	刺激提示教材(デ モ・教育)	シールあり			
BK00056	照度計		照度計	株式会社 津製作所	視覚	物理測定 (時間・ 重量・長さ・照度 等)	ラベル:「国際商科大学 No.」			
BK00057	音叉		音叉	株式会社 津製作所	聴覚音楽	刺激提示物理測 定 (時間・重量・ 長さ・照度等)	シールあり			
BK00058	照度計		5号形東芝照 度計	東京芝浦電気 株式会社	視覚	物理測定 (時間・ 重量・長さ・照度 等)	(本体)「心理保存」・「[RK21カ]」・「162」・シールあり、 (付属品1)「第57527号」			
BK00059	照度計		東芝照度計5 号形 (低照度 用)	東京芝浦電気 株式会社	視覚	物理測定 (時間・ 重量・長さ・照度 等)	(本体)「照度計」・「45」・シールあり			
BK00060	ホイーストンプ リッジ		ホイーストンプ リッジ	株式会社 津製作所	その他	物理測定 (時間・ 重量・長さ・照度 等)	シールあり			
BK00061	概念形成実験 用具		概念形式実験 用、概念形成 実験器具		学習記憶実 験、言語・思考	刺激提示	(箱)「三郷A」・「概念形成」・シールあり			
BK00062	脳定位固定装 置		ラット (ラッテ) 用脳定位固定 器	有限会社高橋 商店	動物実験	その他	「備品 NO. 23845立教大学 78」・「備品 NO. 18460 立 教大学 69」・「整理番号 文学部 29」・「44」・「教育研 究」			
BK00063	脳定位固定装 置		不明	TRENT WELLS, Inc.	動物実験	その他	「備品 NO. 8710406 立教大学 1987」・「備品 NO. 83- 10853 立教大学 1983」			
BK00064-1	マルチユニット	マルチユニット システム 製品番号320	MULTI UNIT SYSTEM	竹井機器工業 株式会社	多領域	制御 (時間設 定等)、反応測 定・記録物理測定 (時間・重量・長さ・ 照度等)コンピュータ・ タ・マルチユニット	「4.5」	1979		

BK00064-2	マルチユニット	マルチユニット システム 製品番号320	EN-EXP		多領域	制御(時間設定等)反応測定・記録物理測定(時間・重量・長さ・照度等)コンピュータ・マルチユニット	(本体1)「GEN. EXP 1」、(本体2)「GEN. EXP 7」、(本体3)「GEN. EXP 3」、(本体4)「GEN. EXP 14」、(本体6)「GEN. EXP 10」、(本体7)「GEN. EXP 11」、(本体1)「備品 NO.22545 立教大学 75 心理実験材料費」、(本体4)「備品 NO.25988 立教大学 55」、(本体5)「備品 NO.22549 立教大学 75 心理実験材料費」			
BK00065	ネチャエフ式タキストスコープ	ネチャエフ式タキストスコープ	ネイチヤフ氏瞬間露出器	竹井機器工業株式会社	視覚	制御(時間設定等)刺激提示	「ST 11」・「[]」・「[10-AC-88-1]」	1967		
BK00066	ベルグストロム型振子時計		振子型測時計	竹井機器工業株式会社	多領域	制御(時間設定等)反応測定・記録物理測定(時間・重量・長さ・照度等)	(本体)「慶應義塾大学 日吉心理学研究室」・「0804」、(木箱)「東京支店」・「慶應義塾大学 日吉心理学研究室」			
BK00067	ゾートロープ		フェナキストスコープ	竹井機器工業株式会社	視覚	刺激提示・教材(デモ・教育)	(スタンド)「OK 1」・「部局名 整理 No.8786 教育学部」・シールあり			
BK00068 (欠番)			欠番							
BK00069	ランジュブルク式記憶実験装置		ランジュブルク記憶装置	竹井機器工業株式会社	学習記憶実験	刺激提示	「[]」義塾大学「[]」品名「[]」・「慶應義塾大学 日吉心理学研究室」・「1212」			
BK00070	打印度数計		タッピング装置	竹井機器工業株式会社 SANWA SANGYO TOKYO	運動協応職業・疲労・適性・運転	反応測定・記録、心理検査	「ST 13」・シールあり			
BK00071	ネチャエフ式タキストスコープ		ネイチヤフ式タキストスコープ	竹井機器工業株式会社	視覚	制御(時間設定等)刺激提示	「慶應義塾大学 日吉心理学研究室」・「0708」			
BK00072	ヴァント落下式タキストスコープ		ヴァント落下式タキストスコープ	株式会社山越製作所	視覚	制御(時間設定等)刺激提示	「慶應義塾大学 日吉心理学研究室」・「[]」・「0705」			
BK00073	照度計		5号型東芝照度計	東京芝浦電気株式会社	視覚	物理測定(時間・重量・長さ・照度等)	「8」・「0602」			
BK00074	型盤検査器	型盤検査器 T.K.K.1309e	携帯用形合テースト(型盤検査器)	竹井機器工業株式会社	職業・疲労・適性・運転	心理検査	(木箱)「RK56」・シールあり			
BK00075	フェッパル式安定度検査器	フェッパル式安定度検査器 T.K.K.1211	フェッパル式安定度検査器	竹井機器工業株式会社	運動協応職業・疲労・適性・運転	刺激提示・反応測定・記録	「ST12」・シールあり	1968		
BK00076	大小分類検査器	大小分類検査器 T.K.K.117	大小分類検査器(適性検査器械)	竹井機器工業株式会社	職業・疲労・適性・運転	心理検査	「2-40-1-W-「[]」-001 日付 46.12.1 個数 1 ダイシヨ「[]」ケン「[]」松山東雲「[]」(2196)」・「ST4」・「10-AC-60-2」、シールあり			

BK00077	自記式エルゴグラフ	自記式エルゴグラフ T.K.K.1242	自己式エルゴグラム	竹井機器工業株式会社 SERTEC TOKYO JAPAN	保健体育	身体測定 (含トレナー)	「472」・「担当印 (印文)」田沢「検査印 (印文)」須田「(商標) 竹井機器工業株式会社」・「RK47」・「備品 NO. 25384 立教大学 55」・シールあり	1980	
BK00078	精神反応速度検査器	精神反応速度検査器 T.K.K.1309f	精神反応検査器	竹井機器工業株式会社	職業・疲労・適性・運転	心理検査	「RK58」・シールあり		
BK00079	行動記録器	携帯用行動記録器 製品番号602	携帯式行動記録器	竹井機器工業株式会社	多領域	行動記録 (アナライザー)	(本体)「2-04-1-W-00005-001 日付 46,12,31 個数 1 コウドウキロクキ 松山東雲学園 (印文)」「検」(018)・「ST1」・「10-AC-76-1」・シールあり、(革ケース)「2-40-1-W [] 日付 46, [] コウドウキロク [] 松山東雲学 []」		
BK00080	協応動作検査器	協応動作検査器 A T.K.K.138	協応動作検査機	竹井機器工業株式会社	運動協応	刺激提示・反応測定・記録	「ST9」・「品名 T.K.K. 協応動作検査器 担当印 (朱印) 検査印 (朱印) (商標) 竹井機器 []」・「2-04-1-W-00010-001 日付 46,12,31 個数 1 キョウオウコウドウサケンサキ [松山東雲学園カ] (朱印) (018)」・シールあり		
BK00081	協応動作検査器	協応動作検査器 A T.K.K.138	協応動作検査機	竹井機器工業株式会社	運動協応	刺激提示・反応測定・記録	「品名 T.K.K. 協応動作検査器 担当印 (印文)」須田「検査印 (朱印) (商標) 竹井機器工業株式会社」・「協応動作検査器」	1976	
BK00082	圧覚天秤		圧覚天秤	安藤研究所 竹井機器工業株式会社	温度・圧・痛覚・重量感覚	刺激提示	(本体)「立教大学備品 (バーコード) *93-10025*」・「RK23」・「用品 NO.9220956 立教大学 1992」・「用品 NO.9220957 立教大学 1992」・(附属品1本箱)「圧覚弁別 (旧) 分銅」・「15」・「圧覚弁別おもり」・「RK22」・シールあり		
BK00083	電磁ハンマー		電磁ハンマー	科学器械製作所	多領域	物理測定 (時間・重量・長さ・照度等)	「RK45」・「No.4-1」・シールあり		
BK00084	電鍵		電鍵		多領域	アタッチメント・スィッチ類	「RK44」・「No.15-6」・シールあり		
BK00085	デュ・ボア＝レーモンの誘導コイル (部分)		不明		多領域	制御 (時間設定等)	「RK49」		
BK00086	電磁ハンマー		電磁ハンマー	竹井製作所	多領域	物理測定 (時間・重量・長さ・照度等)	「慶應義塾大学 日吉心理学研究室」・「0721」		
BK00087	モノロー計算機	モノロー電動計算機	モノロー式計算機	MONROE	その他	コンピュータ・マルチユニット	「RK53」・シールあり		
BK00088 (欠番)			欠番						
BK00089 (欠番)			欠番						

BK00090	動体視力検査装置	動体視力検査装置 KINETIC VISION TESTER AS-4A	動体視力検査装置 KINETIC VISION TESTER	興和株式会社	視覚・職業・疲労・適性・運転	検査提示・反応測定・記録・心理検査	(本体)「東大文学部 昭和44年度 記号 M7 番号 第1号」・「44年度 調査済 文」・「54 文」・「昭和45年11月10日 検査済 東京大学施設部」・(ケース)「東大文学部 昭和44年度 記号 M7 番号 第1号」			
BK00091-1	タキストスコープ	タキストスコープ	タキストスコープ本体	Ralph Gerbrands Co.	視覚	制御 (時間設定等)・刺激提示	「東大文学部 昭和49年度 記号 L17 番号 第1号」・「54 文」・「1」・「2」・「3」・「4」・「N-131」			
BK00091-2	タキストスコープ	タキストスコープ	タキストスコープ	GERBRANDS CORPORATION	視覚	制御 (時間設定等)				
BK00091-3	タキストスコープ	タキストスコープ	タキストスコープ	Ralph Gerbrands Company	視覚	刺激提示	「東大文学部 昭和49年度 記号 L17 番号 第1号」・「54 文」・「95」・「100」・「75」	1974		
BK00091-4	タキストスコープ	タキストスコープ	タキストスコープ	Ralph Gerbrands Company	視覚	制御 (時間設定等)	「東大文学部 昭和 年度 記号 L43 番号 第2号」・「L-105」			
BK00092	実験用スタンド	万能支柱台	特殊スタンド	株式会社山越製作所	多領域	アタッチメント・スイッチ類	「4 ②」・「1001」			
BK00093	モイマンの時	モイマンの時	モイマンの時	竹井機器工業株式会社	多領域	制御 (時間設定等)	(スタンド)「1111」			
BK00094	レーマン式目測計	レーマン式目測計	レーマン式目測計	竹井製作所又は竹井機器工業株式会社	視覚・性格・知能・職業・疲労・適性・運転	検査提示・反応測定・記録・心理検査	(木箱)「慶應義塾大学 日吉心理学研究室」・「[] 大学 [] 品部類 番号 1079 品名」・「1207」			
BK00095	レーマン式目測計	レーマン式目測計	レーマン式目測計	竹井機器工業株式会社	視覚・性格・知能・職業・疲労・適性・運転	検査提示・反応測定・記録・心理検査	(本体)「[]」・「[]」・(木箱)「NO.91」・「43」・「教育研究」・「工業名」・「マン式目測 担当印 検査印 (商標) 竹井機器工業株式会社」・「RK61」・「備品 NO. 17352 立教大学 68」・「シールあり」	1969		
BK00096	色名呼称版	色名呼称版	色名呼称版	色名呼称版	視覚・言語・思考	刺激提示	「慶應義塾大学 日吉心理学研究室」			
BK00097	鏡映描写器	鏡映描写器	鏡映描写器	竹井機器工業株式会社	学習・記憶・実験・運動・協応	刺激提示・反応測定・記録	「43」・「教育研究」・「RK52」・「備品 NO. 17445 立教大学 68」・「シールあり」	1969		
BK00098	カーン・シンボル・テスト	カーン・シンボル・テスト	カーン・シンボル・テスト	カーン・シンボル・テスト	性格・知能	心理検査	(本体)「1 ~ 15」・(箱)「Kahn Test of Symbol Arrangement (KTS)」・「[ST8]」・「シールあり」			
BK00099	カイモグラフィ	カイモグラフィ	カイモグラフィ	竹井機器工業株式会社	多領域	反応測定・記録・行動記録 (アナライザー)	(スタンド)「RK2」・「[]」・「0906」・「シールあり」			
BK00100	カイモグラフィ	カイモグラフィ	カイモグラフィ	Zimmermann	多領域	反応測定・記録・行動記録 (アナライザー)	(スタンド)「RK27」・「シールあり」			

BK00101	周波数計		FREQUENCY METER	株式会社 津製作所	島	その他	物理測定 (時間・ 重量・長さ・照度 等)	シールあり	1964		
BK00102	顔料標本		顔料標本	京都科学標本 株式会社	京都科学標本 株式会社	視覚	教材 (デモ・教育)	(本体)「1」・「2」・「3」・「4」・「5」・「6」・「7」・「8」・「9」・ 「10」・(木箱)「顔料標本 一〇種 京都科学標本株式 会社 (京都科学標本株式会社)」・シールあり			
BK00103	熱電高温指示 計	熱電高温指示 計	熱電高温指示 計	株式会社 津製作所	島	温度・圧・痛覚 ・重量感覚	物理測定 (時間・ 重量・長さ・照度 等)		1964		
BK00104	風速計		ヒラム微風計・ ANEMOMETER	株式会社 津製作所	島	その他	物理測定 (時間・ 重量・長さ・照度 等)		1964		
BK00105	球面計		球面計・ SPHEROMETER	株式会社 津製作所	島	その他	物理測定 (時間・ 重量・長さ・照度 等)	(木箱) シールあり			
BK00106	デジタルタイ マー		DIGITIMER	竹井機器工業 株式会社	多領域		制御 (時間設定 等) , 反応測定・ 記録		1968		
BK00107	マルチカウン ター		マルチカウン ター	KIKUSUI ELECTRONICS CORP JAPAN	その他		物理測定 (時間・ 重量・長さ・照度 等)	「13」			
BK00108	マルチカウン ター		ユニバーサル カウンタ ー	TAKEDA RIKEN (タケ ダ理研)	その他		物理測定 (時間・ 重量・長さ・照度 等)				
BK00109	一般職業適性 検査器	一般職業適性 検査器 T.K.K.1309	一般職業適性 検査器	竹井機器工業 株式会社	職業・疲労・適 性・運転		心理検査	(本体4)「[]」・(木箱)「OK9」・「記号 L39 NO.1 岡 山大学教育学部」・シールあり			
BK00110	処置判断検査 器	処置判断検査 器 T.K.K.1105	処置判断検査 器・ DISPOSITION JUDGEMENT TEST	竹井機器工業 株式会社	職業・疲労・適 性・運転		刺激提示・反応測 定・記録・心理検 査	「NO.48-2」・「43」・「教育研究」・「209」・「JTA 推薦 品」・「財団法人・全日本交通安全協会 推薦品」・「RK3」・ 「立教大学心理学研究室」・「備品 NO. 17443 立教大 学 68」・シールあり	1969		

[抄録]

本論文では、文教大学越谷キャンパスに保管・展示されている心理学の古典的な実験機器の現状について、これまでの経緯とともに述べることを目的としている。まず、日本国内における心理学の古典的な実験機器の保管に関するこれまでの研究活動を概観し、その上で、実験機器の現物保管及び展示を文教大学で行うこととなった経緯について紹介し、日本心理学会の活動の一環として行ったデジタルアーカイブ化の成果について記した。その後、これらの機器・資料の大学における心理学教育への活用として、実験心理学の授業での題材として用いたこととその効果について紹介し、その上で今後の展望として動態展示に関する現状を述べた。
